

第6回学校関係者評価委員会

○日時：令和7年6月18日（水）午後2時～3時半

○場所：河崎会看護専門学校会議室

○出席者：

- （1）評価委員
- | | |
|----------|---|
| ①実習施設関係者 | 市立貝塚病院 看護局長
泉大津市立周産期小児医療センター 看護部長
永山病院 看護部長 |
| ②高等学校 | 大阪府立貝塚南高等学校 校長 |
| ③卒業生 | 近畿大学病院 看護師
岸和田徳洲会病院 看護師 |

- （2）学校教職員 学校長、副学校長、3学科各教務主任、事務長

○各学科の2024年度重点目標の達成状況の説明

○2024年度学校評価・自己評価の説明

○2024年度学校関係者評価

- （1）評価結果 学校教職員による2024年度自己評価は概ね妥当と認められる。
- （2）評価委員の主な意見
- 教職員全員が学校の理念や目指すべき方向について認識を共有しておくことが重要。学生の価値観が多様化している中で、看護は命を輝かせるやりがいのある職業であることを伝え続けることが大切。
 - 看護師として仕事することを楽しみにとする種を学生時代に蒔いてほしい。学校から臨床へ上手く繋ぎ、看護師として人生を楽しく生き生きと過ごせるように。
 - 不安が強く、自己肯定感の低い学生に対するサポートは、学生自身の強みを認め褒める。学生同士がお互い褒め合うことが必要。
 - 看護っていいなという体験を学生時代に積んで、臨床に出てきてほしい。実習記録には載ってこない患者とのやりとりや信頼を得たやりとりなどを学生にフィードバックして、次に繋がる活力を引き出してほしい。良い体験を膨らませていくことが看護師としてやっていこうという活力の源泉となる。
 - インシデント事例の把握には学生の心理的安全性の確保が必要。学生時代から「インシデント・アクシデント」は言ってもいい、みんなのために公表することはいいことなんだという風土づくりをしているのは良い取り組みであり続けてほしい。
 - ハートプロジェクトは大変良い取り組みであり、質的評価を行ってほしい。